

公益財団法人 日本バレーボール協会
第3期・2012年度 事業報告書
(2012年4月1日～2013年3月31日)

1. 事業の概況

本会は2011年2月に公益財団法人に移行し、第1期が2月～3月の2ヵ月間、第2期が2011年4月～2012年3月、第3期が2012年4月～2013年3月となります。以下、本年3月末迄の第3期事業概況を取り纏め報告します。

当期はオリンピックイヤーであり、男女6人制、男女ビーチバレーボールのロンドンオリンピック出場が最重要課題でした。オリンピック最終予選が5月～6月に開催され、女子6人制と男子ビーチバレーボールが見事出場権を獲得し、7月8日には多くのファンと共に壮行会を盛大に開催しました。ロンドンオリンピックでは、女子6人制が28年ぶりに銅メダルを獲得し日本国中に感動を与えることができました。これを祝って9月28日には銅メダル祝勝会を開催しました。

オリンピック終了後、2016年のリオデジャネイロオリンピックに向けて、強化体制の再構築を図ることとなりました。女子は眞鍋監督が次の4年間も続投する事が9月28日の理事会で承認されましたが、男子監督が公募により選出する事となり、監督候補者選考委員会にて鋭意審査の結果、米国人ゲーリー・サトウ氏を監督に迎える事となりました。

又、強化事業本部の組織改正に合わせ、強化担当GMを設置、また一貫指導委員会、男女強化委員会、男子テクニカル委員会を廃止し、新たに選手発掘から育成までの一貫した体制を構築するため、男女育成強化委員会並びに男女育成強化ディレクターを設置する事としました。

前期に会長がアジアバレーボール連盟（以下「AVC」という。）副会長に任命されたのに続き、9月末の国際バレーボール連盟（以下「FIVB」という。）総会にて、各委員会メンバーに本会関係者より12人が選出されました。

大阪市立高校の男子生徒が部活動中の指導者による体罰を苦に、自らの命を断った事件に端を発し、全国のチームの実態調査を開始したところ、各地で暴力や体罰の実態が判明したため、本会としても会長名で体罰根絶に向けて指導の徹底を指示すると共に、相談窓口を設置し対応することとしました。

当期決算については、壮行会、スタッフ派遣費用、祝勝会、オリンピック出場、メダル獲得の報奨金等のオリンピック関連費用の増加及び、入場料収入も大幅に減少したため、約 40 百万円の赤字となりました。

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化学業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行った。

1) シニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選において、女子は出場権を獲得、さらにはロンドンオリンピックで銅メダルを獲得した。男子のオリンピック出場はならなかったが、引き続き 4 年後に向けて選手強化を行った。

*男子 国内合宿・ナショナルトレーニングセンター（以下「NTC」という。）を主会場として 46 日間実施。

*女子 国内合宿・NTC を中心に 63 日間実施。

海外合宿・中国、スイス、トルコで 24 日間実施。

(注 1・シニアチームとはトップレベル選手から構成された日本代表チームである。)

*従前と同様に、国内外の災害等の発生に応じて、被災地でのバレーボール教室等の支援活動を行った。

2) ユニバーシアード男子・女子日本代表チーム強化合宿

2013 年度に開催されるユニバーシアード大会（2 年に 1 回開催）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行った。

*男子 国内合宿・NTC ほかに 23 日間実施。

*女子 国内合宿・NTC ほかに 19 日間実施。

(注 2・ユニバーシアードチームとは主に大学生を中心に構成された日本代表チームである。)

3) ジュニア男子・女子日本代表チーム強化合宿

本年度の最大目標であるアジア選手権（2 年に 1 回開催）での優勝（2013 世界選手権出場権獲得）を目標に強化合宿を行った。

*男子 国内合宿・NTC ほかに 28 日間実施。

海外合宿・タイで 7 日間実施。

*女子 国内合宿・NTC を中心に 36 日間実施。

海外合宿・タイ、韓国で8日間実施。

(注3・ジュニアチームとは主に20歳以下の選手を中心に構成された日本代表チームである。)

4) ユース男子・女子日本代表チーム強化合宿

*男子 国内合宿・27日間実施

*女子 国内合宿・25日間実施。

(注4・ユースチームとは主に高校生を中心に構成された日本代表チームである。)

5) ビーチバレーボール日本代表選手強化合宿

ロンドンオリンピックの予選であるコンチネンタルカップで男子が出場権を獲得、代表チーム選考のため上位2チームによる代表決定戦を実施した。

また、FIVB ワールドツアー出場と各種国際大会の日程調整を行い、効率的な強化合宿を実施した。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) バレーボールアカデミー事業

全国からオーディション等で選抜された中学生をトレーニングセンターに集め、アカデミープログラムに基づき、トップレベルの指導体制による強化合宿を、年間を通して実施した。

2) 全国小学生長身選手発掘、全国選抜中学生強化合宿事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施した。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行った。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行った。

3) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行った。

4) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行った。

5) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施した。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦(試合)を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣した。

1) シニア日本代表チーム

- *男子 ワールドリーグ（開催国・ロシア、キューバ、セルビア、日本、開催期間・5/18～7/1、除く5/31～6/10） 15位

（以下同様に記載）

ワールドリーグ 2013 出場決定戦（イラン、9/6～9/9） 2敗

- *女子 ワールドグランプリ（韓国、日本、6/5～6/24） 9位
- 第3回アジアカップ（カザフスタン、9/7～9/17） 5位

2) ユニバーシアード日本代表チーム

- *男子 アジアパシフィックカップ（福岡、6/13～6/17） 1位
- *男子 第3回アジアカップ（ベトナム、8/30～9/7） 3位
- *女子 VTVカップ（ベトナム、7/12～7/21） 1位
- *女子 アジア東部地区選手権大会（中国、8/24～9/1） 2位

3) ジュニア日本代表チーム

- *男子 ジュニアアジア選手権大会（イラン、9/24～10/6） 1位
- *女子 ジュニアアジア選手権大会（タイ、9/29～10/9） 3位

4) ユース日本代表チーム

- *男子 ユースアジア選手権大会（イラン、10/22～11/1） 3位
- *女子 ユースアジア選手権大会（中国、10/10～10/20） 1位

5) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

- ・AVC コンチネンタルカップ 第3フェーズ（中国、6/17～6/24）
男子 1位 女子 5位
- ・ワールドツアー（世界各地で4月～10月まで開催、7、8月はほぼ毎週末開催） 9大会に派遣

6) ビーチバレーボールジュニアクラス男女日本代表チーム

- ・ビーチバレーユース世界選手権（キプロス、6/30～7/16）
- ・アジアビーチゲームズ（中国、6/10～6/19） 予選敗退
- ・ビーチバレー世界大学選手権大会（ブラジル、9/11～9/16）
男子 17位、女子 17位および 13位
- ・ビーチバレーアジア大学選手権大会（タイ、11/27～11/30） 女子 2位

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

- 1) 2012 ロンドンオリンピックバレーボール世界最終予選兼アジア大陸予選大会
FIVBが4年に1回オリンピックの予選として開催する2012 ロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選大会男女大会（以下「OQT」という。）をFIVBと協力して日本で開催した。

OQT は日本にとって、オリンピック出場資格を獲得するための、アジア大陸予選及び世界最終予選としての最後のチャンスとなる重要な大会である。

開催期間：5月19日～6月10日間の全14試合日

試合数：女子大会 延べ28試合／男子大会 延べ28試合

参加国：各大陸オリンピック予選（FIVB加盟220カ国）でオリンピック出場資格未取得国（アジアはアジア大陸予選参加国を含む）
男女各8カ国（選手団280人、競技役員30人、計310人が来日。）

開催都市：東京

A. 大会結果(最終順位)：

【女子大会】2012年5月19日(土)～5月27日(日)／9日間

(休息日2日間)、全28試合

①世界最終予選枠として上位3チームが出場権獲得。

②上記①を除くアジアの最上位チームがアジア予選枠の代表として出場権獲得。

1位・ロシア、2位・韓国、3位・セルビア、4位・日本、5位・タイ、6位・キューバ、7位・ペルー、8位・チャイニーズタイペイ

○ロシア、韓国、セルビアは世界最終予選枠で、日本はアジア大陸予選枠でロンドンオリンピック出場権獲得。

【男子大会】2012年6月1日(金)～6月10日(日)／10日間

(休息日3日間)、全28試合

①上位チームが世界最終予選枠の代表として出場権獲得。

②上記①を除くアジア最上位チームがアジア予選枠の代表として出場権獲得。

1位・セルビア、2位・オーストラリア、3位・イラン、4位・日本、5位・中国、6位・韓国、7位・ベネズエラ、8位・プエルトリコ

○セルビアは世界最終予選枠で、オーストラリアはアジア大陸予選枠でロンドンオリンピック出場権獲得。日本は出場権を逃す。

B. 観客数及び視聴率

○女子大会

・5月19日(土) 日本 対 ペルー

観客数：9,100名 視聴率：19時14分～20時54分 12.5% (CX)

・5月20日(日) 日本 対 チャイニーズタイペイ

観客数：8,030名 視聴率：19時19分～20時54分 13.1% (TBS)

・5月22日(火) 日本 対 タイ

観客数：8,000名 視聴率：19時14分～20時54分 14.2% (CX)

・5月23日(水) 日本 対 韓国

観客数：10,000名 視聴率：19時19分～21時29分 15.5% (TBS)

・5月25日(金) 日本 対 キューバ

観客数：9,500名 視聴率：19時14分～21時44分 18.0% (TBS)

・5月26日(土) 日本 対 ロシア

観客数：10,000名 視聴率：19時09分～20時59分 18.5% (CX)

・5月27日(日) 日本 対 セルビア

観客数：10,000名 視聴率：19時09分～21時44分 23.3% (CX)

○男子大会

・6月1日(金) 日本 対 セルビア

観客数：4,000名 視聴率：19時09分～20時54分 11.2% (CX)

・6月2日(土) 日本 対 ベネズエラ

観客数：9,200名 視聴率：19時14分～21時09分 13.0% (TBS)

・6月5日(火) 日本 対 韓国

観客数：9,000名 視聴率：19時09分～21時49分 14.7% (CX)

・6月6日(水) 日本 対 中国

観客数：9,800名 視聴率：19時14分～21時29分 11.8% (TBS)

・6月7日(木) 日本 対 オーストラリア

観客数：10,000名 視聴率：19時14分～20時59分 15.9% (TBS)

・6月9日(土) 日本 対 プエルトリコ

観客数：10,000名 視聴率：19時14分～21時29分 14.7% (TBS)

・6月10日(日) 日本 対 イラン

観客数：10,000名 視聴率：19時09分～21時09分 12.8% (CX)

2) FIVB ワールドグランプリ 2012

FIVB はアジアでの女子バレーボールの発展を目的としてアジア地区で本大会を毎年、開催しているが、本年は予選ラウンドを FIVB と協力して開催した。

決勝ラウンドは中国で開催。

開催期間：6月15日～17日、6月22日～24日、計6日間

試合数：延べ12試合

参加国：アジア、ヨーロッパ、北中米、南米の代表16チーム

(選手団120人、競技役員12人、計132人が来日。)

開催都市：小牧、大阪の2都市。

【Week 2 小牧大会】（視聴率：地上波は録画放送のため記録なし）

- ・ 6月15日（金） 日本 対 ドミニカ 観客数：2,000名
- ・ 6月16日（土） 日本 対 プエルトリコ 観客数：5,000名
- ・ 6月17日（日） 日本 対 タイ 観客数：5,000名

【Week 3 大阪大会】（視聴率：地上波は録画放送のため記録なし）

- ・ 6月22日（金） 日本 対 ドイツ 観客数：4,850名
- ・ 6月23日（土） 日本 対 トルコ 観客数：6,700名
- ・ 6月24日（日） 日本 対 韓国 観客数：8,500名

3) FIVB ワールドリーグ 2012

FIVB は毎年、その年の男子バレーボールの世界一を決める本大会を開催しているが、本年はインターコンチネンタル・ラウンドを FIVB と協力して開催した。

開催期間：5月18日～20日の計3日間

試合数：延べ6試合

参加国：日本、キューバ、ロシア、セルビア

開催都市：浜松市

【Week 1 浜松大会】（視聴率：地上波は録画放送のため記録なし）

- ・ 5月18日（金） 日本 対 キューバ 観客数：1,810名
- ・ 5月19日（土） 日本 対 トルコ 観客数：2,050名
- ・ 5月20日（日） 日本 対 セルビア 観客数：2,500名

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行った。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほか競技役員、審判員ほかを派遣した。

○役員等派遣

派遣月日	派遣先	行事
4月5日	ウランバートル/モンゴル	第2回アジア大学女子バレーボール選手権

- 参加者：西脇克治 AVC スポーツ競技委員会委員
- 4月21日 北京 AVC Finance Committee(FC) Meeting
参加者：岩満一臣 同委員
- 4月23日 北京 AVC Executive Committee (E/C) Meeting
参加者：中野泰三郎会長、羽牟裕一郎理事
- 4月24日 北京 32nd AVC Board of Administration Meeting
参加者：中野会長、羽牟医事委員長
- 6月8日 釜山/韓国 FIVB World Grand Prix 1st Week Pool C
参加者：立木正夫 FIVB WGP カウンシル会長
- 6月20日 Guimaraes/ポルトガル FIVB World League R3 Pool D
参加者：西脇レフェリーデレゲート
- 6月22日 高雄市/台湾 FIVB World Grand Prix 3rd Week Pool L
参加者：立木 FIVB WGP カウンシル会長、事務局員 1名
- 6月25日 寧波/中国 FIVB World Grand Prix Final
参加者：立木 FIVB WGP カウンシル会長、事務局員 1名
- 6月27日 ダラス/USA FIVB World League R4 Pool C
参加者：西川友之レフェリーデレゲート
- 7月6日 ソフィア/ブルガリア ワールドカップ 2015・9 契約会議
参加者：羽牟理事、小島和行理事
- 7月23日 ロンドン/イギリス 2012 ロンドンオリンピック
参加者：羽牟メディカルデレゲート
- 9月16日 アナハイム/USA 33rd FIVB World Congress
参加者：立木 FIVB 理事、中野会長、岩満事務局長、羽牟理事、森田淳悟
理事、小島理事、事務局員 1名
- 9月28日 Nakhon Pathom/タイ The 16th Asian Jr. Women's
Championship
参加者：若尾勝美委員
- 10月10日 ドーハ/カタール FIVB Club World Championships
参加者：羽牟メディカルデレゲート
- 11月6日 ローザンヌ/スイス FIVB Beach Volleyball Commission Meeting
参加者：小島委員
- 11月30日 ローザンヌ/スイス FIVB World Grand Prix Council Meeting
参加者：立木 FIVB WGP カウンシル委員長、羽牟理事、事務局員 1名
- 12月2日 ローザンヌ/スイス FIVB Sports Events Council Meeting
参加者：西脇委員

- 12月13日 リオデジャネイロ/ブラジル FIVB Executive Board of
administration Meeting
参加者：中野会長代理・羽牟理事
- 1月15日 ローザンヌ/スイス FIVB Refereeing Commission Meeting
参加者：下山隆志委員
- 1月15日 ローザンヌ/スイス FIVB Rules of the Game Commission
Meeting
参加者：西川委員
- 1月19日 ローザンヌ/スイス FIVB Press Commission Meeting
参加者：竹内浩委員長
- 1月24日 ローザンヌ/スイス FIVB Medical Commission Meeting
参加者：羽牟委員長
- 1月26日 ローザンヌ/スイス FIVB Technical Commission Meeting
参加者：中野担当理事、遠藤俊郎委員、小島理事
- 1月26日 ローザンヌ/スイス FIVB Coaching Commission Meeting
参加者：八坂剛史委員
- 1月29日 北京 AVC Development and Marketing Committee (DMC)
Meeting
参加者：豊原祥徳委員
- 1月30日 北京 AVC Referees Committee Meeting
参加者：下山委員
- 1月30日 北京 AVC Sports Events Council(SEC) Meeting
参加者：西脇委員
- 3月20日 ローザンヌ/スイス FIVB Finance Commission Meeting
参加者：井原実委員
- 3月25日 北京 AVC Coaches Committee(CC) Meeting
参加者：森田委員
- 3月26日 北京 AVC Medical Committee(CC) Meeting
参加者：羽牟委員長、小島理事

○レフェリー派遣

FIVB及びAVCの派遣要請を受け、4月29日の2012 FIVB BVB SWATCH TOURを皮切りに、ロンドンオリンピックを含む6カ国、10大会に延べ13名のレフェリーを派遣した。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与した。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会(NF)との友好を結び、連携強化を図った。

支援対象国及び事業：JICA「世界の笑顔のために」プロジェクト、AVC オセアニア支援プロジェクト、国境のない子供たちプロジェクト、タイ、コートジボワール、クックアイランド、グアム、ニウエアイランド、ミクロネシア諸島、ソロモンアイランド、アメリカンサモア、トンガ、マーシャルアイランド、バヌアツ、ネパール
海外寄贈バレーボール数 928 個

東日本大震災救済活動として宮城県バレーボール協会へ 554 球寄贈、ゴミコンプロジェクトに 20 球寄贈

国内寄贈バレーボール数 574 個

不要バレーボール回収数 6,262 個

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①講習会（バレーボール教室）開催事業

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

(参加者総数 2,437 名：男子児童 418 名、女子児童 1,157 名、保護者 862 名)

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の10都道府県で実施した。

北海道、福島、新潟、千葉、東京、京都、岡山、山口、香川、長崎

2) バレーボールを上手になろう～全国小中一貫バレーボール教室

(参加者総数 1,150 名：選手 955 名、指導者 195 名)

前年度まで、別々に実施していた小学生と中学生対象のバレーボール教室の一部を統合し、本年度より小中合同のバレーボール教室を開催する。統合の目的は、一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図るものである。本年度は以下の3県で実施した。

新潟県柏崎市、島根県出雲市、群馬県前橋市

3) 保育園等でのソフトバレーボール実践事業

(実施総数 30 カ所：小学校 19 カ所、幼稚園・保育園 11 カ所)

幼児期にソフトバレーボールを通じてスポーツの楽しさを伝える環境作りを行うとともにソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開する。本年度は以下の 22 都道府県で実施した。

北海道、岩手、山形、福島、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、石川
福井、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪、島根、岡山、山口、愛媛、長崎
大分

②指導者養成事業

小学生指導者ほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催した。

1) 全国小学生バレーボール指導者講習会

(受講者総数 2,504 名：一次 718 名、二次 1,177 名、三次 609 名)

本会では、小学生の指導者を対象として第一次及び第二次講習会を毎年各地で開催しているが、本年度より第三次講習会を併せて 15 道県で実施した。

北海道、青森、岩手、宮城、群馬、埼玉、山梨、静岡、愛知、福井
和歌山、鳥取、高知、福岡、鹿児島

2) 全国中学生バレーボール指導者講習会 (参加者数 220 名)

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者講習会を毎年各地で開催しているが、本年度は以下の 5 道県で実施した。

北海道、長野、愛知、高知、福岡

3) 小中一貫バレーボール指導者研修会兼全国中学生バレーボール指導者研修会

若年層の競技人口拡大のために、小中学生の指導者を育成する事業を展開した。小中学生の指導者が一堂に会して研修する機会を設け、一貫指導の充実とバレーボール人口の拡大を図ることを目的に、本年度は以下の 3 都県で実施した。(参加者数 125 名)

岩手、東京、兵庫

4) 小学校体育教材支援事業及び全国小学校ソフトバレーボール実践補助事業

昨年度より「ソフトバレーボール」の小学校体育科教材完全実施化に伴う支援事業を行っているが、これに資するため小学校教員を対象としたネット型ボール運動「ソフトバレーボール」の冊子の作成準備をするとともに、当該研修会を開催した。

5) 都道府県別バレーボール指導者研修会 (参加者数 759 名)

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国 17 道府県で開催した。

北海道、山形、茨城、群馬、千葉、埼玉、神奈川、静岡、岐阜、三重
滋賀、大阪、山口、高知、佐賀、熊本、大分

6) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会 (参加者数 1,121 名)

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的
に東京ほか 22 道県で開催した。

北海道、宮城、秋田、福島、茨城、神奈川、新潟、富山、石川、愛知
滋賀、島根、岡山、広島、山口、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、宮崎
鹿児島

7) ビーチバレーボール指導者講習会 (参加者数 71 名)

ビーチバレーボール指導者を対象に、大阪・山形で開催した。

8) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、指導員・バレーボール専門教科認定講習会 (参加者総数 283 名：上級コーチ 26 名、コーチ 23 名、指導員 234 名)

日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を、東京・大阪・滋賀で開催した。

9) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会 (参加者数 114 名)

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及び
スキル向上のための研修会 (公認講師研修会・スポーツ指導者研修会) を東京
で開催した

10) ゴールドプラン関連事業

近年の競技人口の減少は憂慮する事態になっており、バレーボールの将来を考えると、緊急且つ最大の課題となっている。特に小学生、中学生が減少している。その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足等々、様々なことが考えられる。この課題には横断的・総合的に対処する必要があり、本会ではこの取り組みを“ゴールドプラン”と称することとし、その中核となるプロジェクトチームを設立してこの課題に対して組織全体で取り組んだ。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催した。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
A級審判員資格取得講習会		(実施しない)	
全国ビーチバレーボール審判講習会	24.04.14～15	川崎	33名
全国ラインジャッジ・クリニック	24.04.30～05.02	大阪府	52名
全国6人制審判講習会	25.03.24	東京都	342名
全国9人制審判講習会	24.04.01	大阪府	190名
ブロックA級審判員講習会	24.04.01～08.31	全国各ブロック	766名
Iスクール	24.08.14～08.30	大阪府他6会場	54名
ビーチIスクール		(実施しない)	
Vスクール	24.05.03～11.11	全国各ブロック	121名
技術統計上級判定員認定講習会	24.04.30	東京都	5名
競技会事前講習会	24.07～24.11	国内競技会開催地	274名
A級審判員研修会（6人制）	24.12.04～06	とどろきアリーナ他	98名
A級審判員研修会（9人制）	25.01.18～21 25.01.24～27	大阪府 京都府	28名 17名

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として以下の資格の認定登録を行った。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボールリーダー
ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定登録を行った。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員
レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行った。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 23 年までの 61 年間、日本国内最強のチームに授与されてきた。平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な全日本選手権大会に生まれ変わったが、本年度はその 6 回目として以下の日程で実施した。

都道府県ラウンド：平成 24 年 4 月～9 月 各都道府県内体育館
(913 チーム・16,434 名参加)

ブロックラウンド：平成 24 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館
(203 チーム・3,654 名参加)

ファイナルラウンド：(第 1 週)平成 24 年 12 月 14 日～16 日 (1 回戦～準々決勝)
駒沢体育館・都城市早水公園体育文化センター
(第 2 週)平成 24 年 12 月 23 日～24 日 (準決勝・決勝)
都城市早水公園体育文化センター
(48 チーム・864 名参加)

優勝チーム 男子：パナソニックパンサーズ（大阪）
女子：久光製薬スプリングス（佐賀）

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施した。

都道府県大会 :平成 24 年 5 月～7 月 各都道府県内体育館
(5,692 チーム・76,089 名参加)

全国大会 :平成 24 年 8 月 7 日～10 日 とどろきアリーナほか
(都道府県代表 98 チーム・1,339 名参加)

なお、例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）で教育活動を行った。

優勝チーム 男子：片桐 V B C（奈良）
女子：中村 J V C（高知）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年度は以下の日程で実施した。

開催期間：平成 24 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪市中央体育館ほか 3 会場（97 チーム・1,164 名参加）

優勝チーム 男子：福岡、女子：大阪南

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として本年度は以下の日程で実施した。

開催期間：平成 25 年 1 月 5 日～7 日（1 回戦～準々決勝）

会 場：さいたまスーパーアリーナ

開催期間：平成 25 年 1 月 12 日～13 日（準決勝・決勝）

会 場：所沢市民体育館（104 チーム・1,872 名参加）

優勝チーム 男子：星城高等学校（愛知）

女子：下北沢成徳高等学校（東京）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年度も以下の日程で大学日本一を決める本大会を実施した。

開催期間：平成 24 年 12 月 3 日～9 日

会 場：川崎市とどろきアリーナほか（235 チーム・4,230 名参加）

優勝チーム 男子：筑波大学（茨城）、女子：嘉悦大学（東京）

⑥ビーチバレージャパン

ビーチバレーボール日本一を決める全日本選手権大会として、本年度は以下の日程で実施した。

平成 24 年 8 月 17 日～19 日 神奈川県藤沢市鵠沼海岸

（男子：56 チーム・112 名参加）優勝チーム：井上・長谷川（推薦）

（女子：8 チーム・16 名参加）優勝チーム：田中・溝江（推薦）

女子大会：平成 24 年 8 月 23 日～26 日 大阪府泉南郡岬町淡輪

（41 チーム・82 名参加）優勝チーム：田中・溝江（推薦）

⑦前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施した。

大会名等	実施期間	会場	チーム数	選手数	優勝チーム
全日本⑨実業団女子選手権大会	24.07.19～22	福島県福島市	22	396	パナソニックエナジー（大阪）
全国ママさん大会（⑨）	24.07.24～27	三重県伊勢市	48	864	大宮公園クラブ（埼玉） 梅津VBC（京都）朝飛（新潟） ビアーズ（鹿児島）
全日本⑨実業団男子選手権大会	24.07.26～29	北海道釧路市	62	1,116	中部徳洲会病院（沖縄）
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	24.08.10～13	兵庫県加古川市	56	1,008	岡山クラブ（岡山）
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	24.08.03～06	長野県大町市他	64	1,152	群雄会（静岡）

全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	24.10.11～14	愛知県一宮市	36 24	648 432	男子：埼玉教員（埼玉） 女子：桃源郷（埼玉）
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	24.11.09～12	宮崎県東諸県郡綾町	37 24	666 432	男子：西方通信群（熊本） 女子：田中外科（宮崎）
全日本⑨総合女子選手権大会	25.01.25～28	京都市	52	936	富士通テン（兵庫）
全日本⑨総合男子選手権大会	25.01.18～21	大阪市	60	1,080	住友電工（大阪）
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	24.05.01～06	大阪市	32	576	男子：パナソニックパンサーズ（大阪） 女子：久光製薬スプリングス（佐賀）
全日本クラブカップ男子選手権大会	24.07.27～30	山口県山口市	64	1,152	岐阜クラブ（岐阜）
全日本クラブカップ女子選手権大会	24.08.02～05	大阪府大阪市	56	1,008	J A ぎふクラブ（岐阜）
全国ヤングクラブ優勝大会	24.09.22～23	大阪府門真市・大阪市	108	1,944	福岡アクティブスポーツクラブ（福岡） 京都蒲公英（京都）狭山ファイティンズ（埼玉）安芸のうみ（広島）
以上⑨は9人制大会、その他は6人制大会					
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	24.08.09～12	神奈川県川崎市	24 24	48 48	男子：了徳寺大学B（千葉） 女子：産業能率大学A
全日本ビーチバレーJユニア男子選手権大会	24.08.04～07	大阪府阪南市	52	156	黒川・坂井（特別推薦）
全日本ビーチバレーJユニア女子選手権大会	24.08.09～12	愛媛県伊予市	45	90	大橋・大橋（兵庫）
第2回全国中学生ビーチバレー大会	24.08.18～19	神奈川県藤沢市	18 33	36 66	男子：富士見クラブA（埼玉） 女子：明治3号（神奈川）
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル	24.08.03～05	兵庫県相生市	33	297	
全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	24.10.19～21	福岡県福岡市	54	432	
全国ヴィンテージ8'S交流大会	24.10.12～14	北海道小樽市	31 8	465 120	50歳以上：f（フォルテ）（熊本） 60歳以上：とびうめ福岡（福岡）

⑧本会、公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施した。

1) 国民体育大会バレーボール競技

日程・平成24年10月5日～8日 開催地・岐阜県山県市ほか

優勝チーム 成年男子：愛知県、成年女子：佐賀県

少年男子：愛知県、少年女子：長崎県

2) 日本スポーツマスターズ2012

日程・平成24年10月20日～23日 開催地・高知県高知市ほか

優勝チーム 男子：PARADISE（大阪）、女子：栄クラブ（静岡）

⑨本会、公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施した。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

日程・平成24年7月30日～8月2日 開催地・富山県氷見市ほか

優勝チーム 男子：星城高等学校（愛知）

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

日程・平成24年8月4日～8月7日 開催地・富山県高岡市ほか

優勝チーム 女子：川崎市立橘高等学校（神奈川）

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程・平成24年8月1日～4日 開催地・神奈川県平塚市

優勝チーム 男子：横浜修悠館（神奈川）、女子：岡山後楽園（岡山）

⑩本会、公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施した。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

日程・平成24年8月20日～23日 開催地・東京都渋谷区ほか

優勝チーム 男子：皇子山中（滋賀）、女子：北沢中（東京）

（5）マーケティング事業

公益目的事業を安定的に推進するべく、バレーボールの社会的な価値や本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動を行った。

本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないように適切な管理運営を行なうとともに、ロンドンオリンピック開催年である今年度は、重点的に日本代表選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努めた。

【2012年度実績】

①	オフィシャルサプライヤー	439 百万円
②	事業スポンサー（国内大会等）	90 百万円
③	全日本代表・天皇杯スポンサー	52 百万円
④	肖像素材使用料	46 百万円

（6）バレーボール用品・用具の公認及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の検定及び認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行った。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨した。

【2012年度実績】

①□	器具公認/推薦料	29 百万円
②	用器具検定料	26 百万円
③	公認物品販売	6 百万円

(7) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則の出版販売を行った。また、購入者がより購入しやすい方法として、本年度よりインターネットによる販売を行った。

【2012年度実績】

ルールブック販売	38百万円
----------	-------

(8) Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構が主催するVリーグについて、東京における開催権を取得し、バレーボールの普及、振興に合わせ、本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催した。

(9) 地域グループ育成強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会等に交付金を交付することで、加盟団体が行う公益目的事業の遂行や団体管理運営に必要な経済的支援を行った。

以上